

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

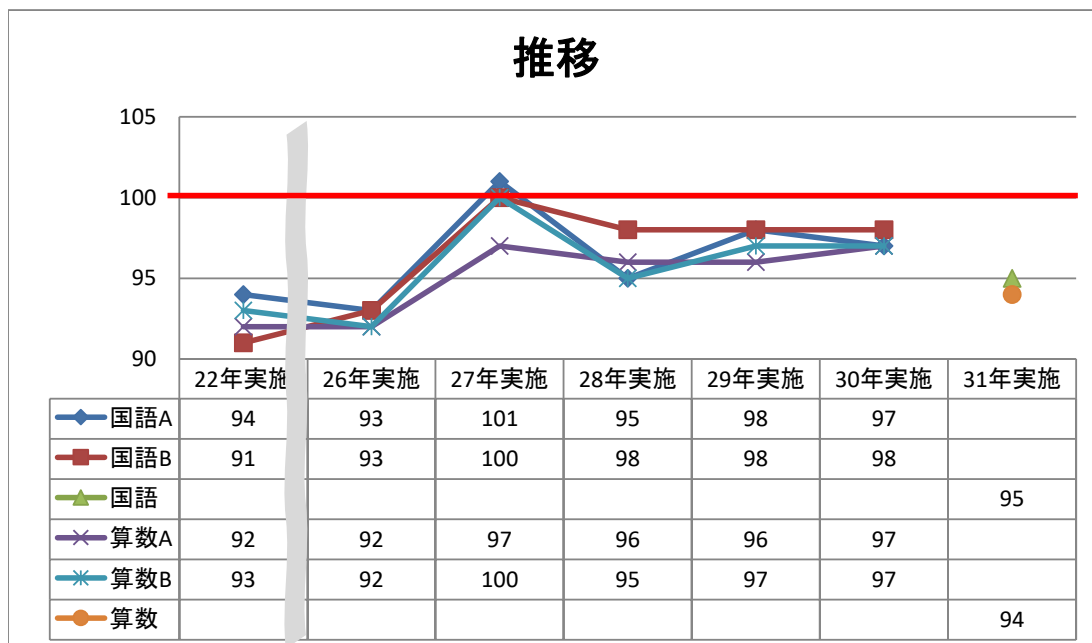
○全国学力・学習状況調査において、全国平均に達する。(国語100・算数100)

## 3.指標に向けての取組

- 算数科重要単元における習熟度別少人数分割授業等の実施
- 「見通し」「振り返り(形成的評価)」の設定と「かく」「話し合う」活動の充実
- 家庭学習に既習の内容を組み入れた繰り返し学習の機会及び家庭学習系統表の徹底・改善

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国 語	算 数
本校	95	94
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

## 5.各学校における分析

○指標に達することはできなかった。  
○国語科では、目的や意図に応じて自分の考えの根拠を明確にして、まとめて書く(記述式、92.7p)、ことわざの意味理解(選択式、89.5p)は、正答率が高かった。これは「かく活動」や「家庭学習」の指導が起因しているものと考えられる。しかし、文章を書く力に大きな課題があった。(記述式の無解答率が高い、最大21%)また、文の中で漢字を使うこと、特に、同音異義語(たいしょう、かんしん)の未定着がある。さらに、文章構成(筋道立てて、関連付けて、解釈して、意図をもって)考える力を育成する必要がある。  
○算数科では、台形の理解(選択式、100p)、ひき算の性質を基にして計算の仕方を解釈し、適用すること(短答式、93p)は、正答率が高かった。これは算数科における「習熟度別少人数分割授業」と「家庭学習」の指導が起因しているものと考えられる。しかし、棒グラフ、式と計算(性質、解釈)に課題があり、履修学年での未定着があるとともに、筋道を立てて考える数学的な考え方を育成する必要がある。

## 6.各学校における今後の取組

○「かくこと」への抵抗を減らし、学習意欲を高めるために、授業の「一人学び」や「振り返り」の段階で、自分の考えを「かく活動」を必ず位置づける。書いたものをもとに一人一人の理解の定着の確認し、伸びを称賛する。  
○算数の理解や技能の定着を図るために「数と計算」「数量関係」の単元を中心に、少人数分割授業等を実施しきめ細やかな指導を継続するとともに、単元の終末段階の指導の徹底を図る。また、「さよなら算数」「家庭学習」等によって繰り返し練習する時間を確保する。  
○習得した知識を活用する力を身に付けさせるために、条件を提示した問題、情報を整理したり関連付けたりする問題を意図的に取り組ませる。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。  
○ 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。  
○ 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。  
○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができるよう、指導と評価の一体化を図る即時評価の取組を奨励したり単元終末段階における習熟度別学習の取組を支援したりする。  
○ 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。  
○ 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。  
○ 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。  
○ 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。